

環境(自立)介護家具コンシェルジェ養成プロジェクト

おおかわし
(福岡県大川市)

家具生産が低迷する中、家具の町、大川市において、今後需要が見込まれる介護福祉支援家具の利活用のアドバイス等を行うコンシェルジェを養成し、自立支援家具の普及に努め、新家具産業の創出、福祉介護サービス向上、地元商店街振興をはかり、地方の元気再生を目指す。



家具コンシェルジェの養成



家具の展示・販売



平成21年度の主な取組

- ① 地元商店街の空き家、空き室を利用し、現実住空間での福祉介護家具の展示会を実施。
- ② 環境(自立)介護家具のモニター調査の実施。
- ③ 地元国際医療福祉大学と連携し、コンシェルジェ養成課程を確立するために実験的夜間大学を実施。

平成22年度以降の展開

家具コンシェルジェの専門性のステップアップ、自立支援介護産業分野の研究サポート、産業界への提案を行うとともに、旧来の家具産業から環境介護家具産業への転換活動のサポートを実施する。

ディスカバー星野、星のふるさとツーリズム推進プロジェクト

やめぐんほしのむら
(福岡県八女郡星野村)

星野村は『星と文化の里』として数多くの地域資源を有しているが、すべてが観光資源として十分に活用されていない状況にあり、過疎化の進行、産業生産力の減少といった問題を抱えている。そのため、地域住民参加による星野村地域交流事業を推進し、新たな観光需要を創出することで、元気な村づくりを目指す。



星のふるさと公園



カラ迫岳登山風景



小学生・地元と連携した商品開発



特産品のお茶を活用したメニュー開発

平成21年度の主な取組

- ① 地域資源発掘調査を実施し、滞在プログラムの開発を行う。
- ② 郷土料理の食資源発掘、地域の代表的農産物であるお茶を活用し、新食メニューを開発する。
- ③ 専門外部機関による指導を受けるとともに、モニター企画を実施し、その検証を行う。

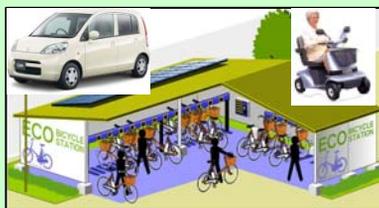
平成22年度以降の展開

平成21年度に開発した新たな観光名所めぐりや体験メニューを具体的に実践し、グリーンツーリズム推進事業、農家民泊等を行い、「星のふるさと色」を強く打ち出すことにより集客力をアップし、地方の元気再生を図る。

ゆとりライフ八幡の元気再生、ITSプロジェクト(北九州市八幡中心地域)

(福岡県北九州市)

交通手段の整備を通じて、空洞化が進む古い街と新しい街の連担性を確保するため、地域の交通拠点として乗り合いタクシーやカーシェアリングのセンター等を整備し、域内の交流密度を高め、街なかの元気再生につなげる。



街なかのエコ交通
ステーション

お出かけ交通
(乗り合いタクシー)



平成21年度の主な取組

- ① ITSを活用したカーシェアリングサービス、乗り合いタクシーサービスを構築して、社会実験を行う。
- ② 地域リーダーの育成や本格実施に向けての地元の理解を進めるため、専門家によるワークショップやシンポジウムを開催。

平成22年度以降の展開

平成21年度の社会実験で明らかになった成果や課題をもとに、本格運営に向けた事業者間の共同運営体制の試行や、ネットワークサービスの試行運営のための社会実験を行い、地域の交通事業者、NPO法人による共同運営組織を立ち上げ、本格運営に移行する。

団塊の世代の学びによる地域活性化プロジェクト

(福岡県北九州市)

今後、急速に増加することが予想される高齢化世代の潜在力に着目し、多様な社会サービス提供のための人材として、育成と活躍の場の提供を図ることにより、新たなソーシャルビジネスを創出し、地域の活性化を図る。



人材の登録・マッチング



町の案内人など高齢者の
活躍できる場の提供

平成21年度の主な取組

- ① モデルケースでの実証実験、人材育成を行い、コミュニティビジネスとしての具現化へ繋げる。
- ② 人材登録を行い、モデルケースへ適合した人材のマッチングを行う。
- ③ モデルケースでの実証実験をもとにして教材の開発を行う。

平成22年度以降の展開

平成21年度の活動結果をもとにしたコミュニティビジネスの具現化、新たな課題解決に向けた5人組を組織し学びの連鎖により市民力を向上させる。

防災と環境再生とツーリズムで地域の自立をめざす

く る め し

「筑後川まるごとリバーパーク」の推進（福岡県久留米市等）

防災意識の低下と流域環境の悪化に対応するため、筑後川流域の人々の連携により、流域一体となった取組みを行い、その上で地域の特色と資源を活かしたツーリズムを積極的に展開して、流域全体の地域の活力の増進を目指す。



流域資源をいかした
ツーリズム



流域の資源の例
可動式鉄橋「昇開橋」



市民参加公開講座

平成21年度の主な取組

- ① 流域の資源をいかしたツーリズムと筑後川舟運体験の開発と実施。
- ② 市民参加公開講座を実施し、活動に参加する人材の育成を行う。
- ③ 筑後川新聞の発行、HPによる情報発信
- ④ 流域の埋もれた景観、及び資源の調査、川の駅の調査。

平成22年度以降の展開

多様なツーリズムメニューを開発、実施し、旅行社とタイアップしてツアーを実施するなど、環境と経済を両立させる持続可能な地域づくり、安心して暮らせる地域づくりを行う。

「柳川堀割物語」第2部

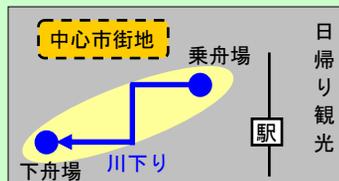
や な が わ し

一堀割を活かした時間消費型観光への転換による地域の活性化—（福岡県柳川市）

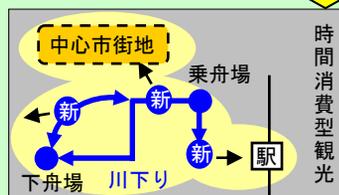
地域最大の観光資源である「堀割」を、生活と観光の両面の交通インフラとして再生し、まち歩きを促進することで、街中回遊性の向上、中心市街地の活性化、従来の日帰り観光から時間消費型観光への転換による観光振興という複合的な効果を目指す。



堀割と川下り



賑わう川沿いの人通りを
街中へ誘導



新たな川下りルートや乗降場の設置
で街中回遊性を高める

平成21年度の主な取組

- ① 駅から堀割までを、地元産品市場やオープンカフェ等で賑わいを演出した歩行者空間として実験的に整備。
- ② 川下りを交通ネットワークとして活用するため、乗り降り等の自由度を高めるとともに、生活用途での利用も含めた社会実験を実施。

平成22年度以降の展開

歩行者専用道路の整備や空き家・空き店舗の活用の検討等、まち歩きの促進による交流人口の拡大に向けた取組みを進めるとともに、実施体制を整備する。

街中元気・にぎわい再生プロジェクト

(福岡県飯塚市)

筑豊唯一の街中映画館を商店街の核として再生し、その利益の一部を街中活性化資金として活用するとともに、再生過程を通してまちづくりの担い手を育成し、コミュニティビジネスによる街中の元気と賑わいの復活を目指す。



街中映画館の再生

コミュニティビジネスによる
まちづくりの担い手の育成

平成21年度の主な取組

- ① 大規模な会費会員制の導入で街中映画館をコミュニティシネマとして再生。
- ② 映画館再生の実践や勉強会の開催によりコミュニティビジネスによるまちづくりの担い手を育成。
- ③ コミュニティビジネスモデルをコンペ形式で募集し、優れた取組みを実践。

平成22年度以降の展開

コミュニティビジネス勉強会のビジネススクール化等により、まちづくりスペシャリストを持続的に育成する仕組みを構築し、映画館運営での資金を活用した元気なまちづくりを実践する。

ハーブ・レモングラスの香りと登り窯の炎で

もてなす農業・商業連携による観光推進事業 (佐賀県武雄市)

担い手の高齢化や農産物価格の低迷が続く中、軽作業で収益性の高いレモングラスに着目し、農商工連携による特産品の開発や体験型観光、窯業等への幅広い活用による相乗効果を生み出すことで、雇用の創出や経済活性化を目指す。



レモングラスを使った特産品



レモングラスの栽培

平成21年度の主な取組

- ① レモングラスを使った料理や特産品の開発、レモングラスを釉薬として活用した新たな陶器の開発を行い、物産展等により市場を開拓。
- ② レモングラス体験の観光メニューを開発し、市内生産者や宿泊施設と連携して体験ツアーを実施。

平成22年度以降の展開

生産規模の拡大による安定供給やハウス栽培による通年栽培等の体制を確立し、JAとの連携等による流通ルートの開拓やブランド化、観光商品の開発による本格展開を進める。

自然と歴史と人が織りなす神埼フィールドミュージアム《神埼》への取組 かんざきし（佐賀県神埼市）

歴史、文化、自然、産業、食、人物などの様々な地域資源を有機的に連携させ、吉野ヶ里遺跡等への点的観光から市内全域をフィールドミュージアムとした面的観光へ転換するとともに、取組を通じた地域間交流による一体感の醸成を図る。



歴史資源「吉野ヶ里遺跡」



文化資源「高志狂言」

地域資源の例



産業資源「製麺(神埼ソーマン)」

平成21年度の主な取組

- ① 取組みの基礎となる地域資源のデータベースを構築。
- ② 地域活動の人材・団体の育成を図るため、神埼塾を開設し、公開講座を実施。
- ③ フィールドミュージアムを活用した観光ルートの開発と見学体験ツアーの実施。

平成22年度以降の展開

地域が連携した活動組織を設立し、食文化・地域産物を活用した産業振興や農家民宿等の滞在型観光の取組を展開するとともに、取組みの広域観光圏への拡大を図る。

西海の恵みと島ぐるみのおもてなしを世界にー おぢかちょう子育てができる島へ雇用10倍！観光産業創業プロジェクト（長崎県小値賀町）

豊かな自然環境に恵まれ、歴史ある島をそのままに活かし、農業や漁業、それに再生古民家や教会などの歴史文化資源をミックスした滞在体験型観光を軸とする新しいまちづくりを目指す。さらに事業主体となる会社を立ち上げ、総合観光産業の創業により、新たな雇用の場を創出する。



再生古民家と島のおかーちゃん



滞在・体験型ツアー



歴史文化資源としての教会

平成21年度の主な取組

- ① 空き古民家の利活用計画策定と古民家レストラン食材供給ルートの構築。
- ② 滞在体験型のターゲットとする大人・外国人に焦点を合わせた「島暮らし」体験プログラムづくりとその実験的開催の実施。
- ③ 事業の経営母体となる株式会社の事業運営プランの策定と経営システムの構築。

平成22年度以降の展開

古民家滞在体験型事業（滞在古民家施設と古民家レストラン）の運営をスタート。さらに人材を育成しながら、株式会社の自立的経営を構築し、魅力ある雇用母体として島ぐるみのおもてなしを提供する産業としての総合観光産業を確立する。

市民協働による地域マネージャー制度を活用した防人の島活性化プロジェクト (長崎県対馬市)

人口減少・少子高齢化が進む国境の島において、市職員すべてが市民と協働する地域マネージャー制度を活用しながら、島の豊かな水産資源を復活させるための一体的な取組みと島の9割を占める森林資源を活用したカーボンオフセットの仕組みの構築を図る。



原始林(国指定天然記念物)が残る霊峰・白嶽(しらたけ)



水産資源を育む対馬の海と空～浅茅湾(あそうわん)～



平成21年度の主な取組

- ① 規格外等により市場流通が厳しい魚種等の加工技術習得による新商品開発の推進
- ② 生活排水の洗浄化や山林整備などによる海・山環境改善への取組み
- ③ 島の資源である森林に着目したカーボンオフセットの仕組み作りに向けた、各種調査の実施や市民意識向上の推進

平成22年度以降の展開

新たな水産資源新商品を活用した起業支援を図り、ひいては韓国との近接を生かした国際海鮮市場の設置を目指す。また、環境省創設の認証制度であるJ-VER(オフセット・クレジット)制度を活用し、島の豊かな森林資源の保全を行う。

メディカル・ツーリズムの実証実験を通じた医療・健康産業の振興 (長崎県長崎市)

地理的に近いに関わらず観光客の伸び悩む中国からの誘致として、医療・観光・食文化に係る長崎市のポテンシャルを活かしたメディカル・ツーリズムの実証実験を行い、またあわせて健康食品等の開発による特産品を創出し、アジアにおけるウェルネス・ポート(健康・医療分野での国際都市)としてのイメージを高め、国際観光振興と地場企業育成を目指す。



長崎は医療機関数、従事者数、医療技術水準で全国屈指の医療基盤を有する



長崎の豊かで開かれた海

平成21年度の主な取組

- ① メディカル・ツーリズムの実証実験として、中国人留学生等とも連携したそのニーズの調査・掘り起こしや、実際の団体ツアーをモデルとしての実証実験を行う。
- ② 地元大学等とも連携し、健康をキーワードとした付加価値の高い特産品開発(例:魚油抽出による新商品開発など)の推進を行う。

平成22年度以降の展開

モデル事業でのノウハウ蓄積等をふまえた事業の商品化や販路開拓を進め、本格的な事業展開への拡大をし、海外からの交流人口を拡大する。

歴史が深く知名度が高いながらその大半が島のため交通条件の悪い平戸市にあって、会費会員制の導入などの新たな個人客層の開拓に向けた取組みをすすめ、‘通うように旅する’リピーター観光客の囲い込みを行い、繰り返し来訪する平戸Funづくりを目指す。



福岡都市圏等
1万人の会員

平戸島



平戸城



街なかを散策する人々

平成21年度の主な取組

- ① 福岡都市圏をターゲットに、ツーリズム企画や情報発信を通じた会員～平戸Fun～獲得へ向けた取組の実施
- ② 会員向け交通アクセスの改善に向けた直通バス運行の開始
- ③ 歴史遺産など地域資源を活かした滞在プログラムの開発、その情報発信による、会員向け企画提案力の充実化

平成22年度以降の展開

福岡都市圏でのさらなる会員～平戸Fun～獲得に向けた取組みを推進するとともに、長崎市内エリアでの会員獲得やそのための交通アクセスの改善を、滞在プログラムの精度向上とともに押し進め、平戸を満喫いただけるFunツーリズムを構築する。

ながさき・見守りたいプロジェクト

うんぜんし
(長崎県長崎市・雲仙市)

今後の地域社会の維持形成には、住民と行政の協働が不可欠であるが、道を舞台にスタートした道守活動(会員約2千人のネットワーク)を土台として、地域の住民・企業・大学・行政の共助体制を構築する取組みを通じ、地域を見守る地域コミュニティ再生を図りながら、地域全体の元気再生を目指す。



地域コミュニティを支える活動



地域の歴史文化の継承～地域教育への導入～

平成21年度の主な取組

- ① 地域コミュニティを支える地域団体同士のパートナーシップを拡大するためのワークショップの開催等の実施
- ② 地域文化を継承するためのお宝ガイドブックの編纂やその地域教育への導入
- ③ 地域を支える「見守り隊」の養成講座の開催と実地研修の実施

平成22年度以降の展開

21年度取組みの醸成の上に「地域見守センター(仮称)」の設立をし、さらに「公開移動講座」や「見守りたいプロジェクト」づくりを行っていく。また、お宝ガイドブックの成果を発展させ、「まち・ムラづくり指南書」の刊行を行い、持続的な「見守りたいプロジェクト」の発展的展開をする。

グリーンライフの宝島”天草”創造プロジェクト あまくさし
 ~再生農地の新たな担い手育成とふるさと回帰のむらづくり~ (熊本県天草市)

地域の基幹産業たる農漁業の衰退、高齢化、若者の流出等により地域活力の低下が続いている中で、天草の恵まれた自然環境と地域資源を活用し、農業を核とした一次産業と観光産業の融合による新たな地域産業創造・雇用創出と二地域居住・UIターン者の誘致による定住人口の確保を図る。



農業者の人材育成

二地域住居モデル



平成21年度の主な取組

- ① 農村起業を目指す若者を全国募集し、地域複合アグリビジネス起業家の人材育成を行い、新たな地域産業の創出を図る。
- ② 働きながら暮らせることに適した、適地の探索・選定、地元推進体制の整備。



平成22年度以降の展開

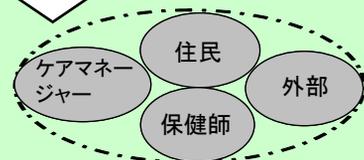
『天草アグリビジネス起業塾』の常設化や、『グリーンライフ・ビレッジ』を開設することにより、新たな地域産業の創造・雇用創出と二地区居住・UIターン者の誘致による定住人口の確保を図る。

支え愛・ふれ愛をサポートするユビキタス・システム開発 (熊本県熊本市)

近年、独居高齢者の増加が問題になっていることから、「QRコード活用の見守り情報伝達サイト(SNS)」の汎用性のある見守りツールを開発し、地域全体で助け合い、支援する仕組みを構築し、高齢者が住み続けられるまちづくりを目指す。



読取 緊急連絡先等の情報



地域住民自らが地域を支える取組みの検討

QRコードによる地域の見守りイメージ

平成21年度の主な取組

- ① 平成20年度に理論構築した「QRコード活用の見守り情報伝達サイト(SNS)」の実施版の作成。
- ② 「QRコード活用の見守り情報伝達サイト(SNS)」の運用の具体化に向けた課題整理の検討。



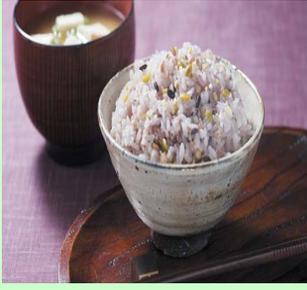
平成22年度以降の展開

平成21年度に構築したQRコードを活用した、10校区全域における見守り推進、参加型の「3次元まちづくりゲーム」の汎用性推進などにより希薄化した地域コミュニティの改善を図る。

長寿健康科学に基づく地域食材資源の高付加価値化による中山間地生き残り事業 ゆのまえまち
—「湯前町アソシエイツ」を中軸とする農工商連携のプラットフォーム構築(熊本県湯前町)

農林業と関連産業の生産、加工から流通までをつくる地域商社を立ち上げ、産・学・公・民協同の農商工連携による商品開発・販売促進、都市との交流を展開することによって農林業及び関連産業従事者の所得向上・就労機会の拡大を図る。

地域資源による食材の商品化



平成21年度の主な取組

- ① 食材等の地域資源調査により、地域資源の把握をし、「健康」「環境」をテーマに高付加価値化を図る。
- ② 農商工の連携や既存の地域資源の活用による『食と健康』をテーマとした都市との交流の基盤を作るため、地域商社(株)湯前アソシエイツ(仮称)の設立。

平成22年度以降の展開

平成21年度に設立した(株)湯前町アソシエイツ(仮称)を中心とする農商工連携ビジネスを本格化し、農林業及び関連産業従事者の所得増加、就労機会増大、定住促進、交流人口増加を図る。

天草シートラスト『海から起こす美味しいカーボンプロジェクト』 かみあまくさし (熊本県上天草市)

藻場の減少により取れる魚が減少し、1次、2次産業の衰退が著しいため、漁場の再生が必要である。そのため、炭素固定能力の高いアカモクの藻場を再生し、漁場の再生を図るとともに、未利用資源のアカモクを農畜産業に活用して、新たな循環を生み出し、水産業、畜産業、農業に展開して地域の活性化を目指す。



アカモクの引き上げ風景

アカモクの機能性成分を生かした養豚



平成21年度の主な取組

- ① 沿岸を利用した漁業の回復を図る。
- ② アカモクの機能性成分を活用して、畜産食品の安全と品質の向上を図る。
- ③ アカモクの持つ保湿成分を活用して、砂漠化する農地の回復を図る。

平成22年度以降の展開

様々な機能性成分を持つアカモクを活用して、天草くまもと一次産業関連カーボンオフセット活動を行い、海から生まれたアカモクカーボンで育つ安全安心な国産食を生み出す。

飼料米”夢挑戦プロジェクト”

うきし
(熊本県宇城市)

近年の飼料価格高騰から畜産農家の経営は危機的な状況にあるが、飼料米を栽培するなど、多数存在する休耕田を有効活用することにより、安価で安定した飼料供給を実現し、地域農業者の所得向上を図る。



飼料用米の栽培

飼料用米給与鶏卵の機能性調査



平成21年度の主な取組

- ① 飼料用米の地産地消を实践、トウモロコシ代替率100%の給与体系を確立など、生産流通体制整備のための検討会を実施。
- ② 飼料用米給与鶏卵の機能性調査とその消費者ニーズ調査。
- ③ 機能性付加鶏卵での商品開発と販売戦略策定。

平成22年度以降の展開

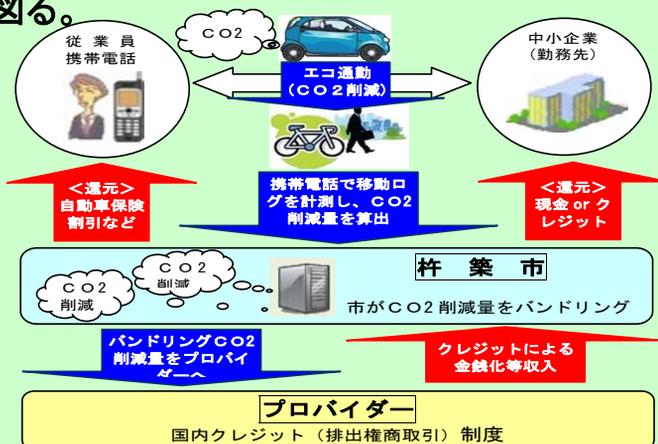
飼料用米が家畜の飼料として利用され、定着が進むに従い、地域における飼料用米の生産拡大が予想されることから、地域内の乾燥・調整・貯蔵施設の整備と併せ、流通システムの構築を図る。

エコでめざそう！元気でいきいき1億円創出プロジェクト

きつきし

(CO2排出権 自治体バンドリング・システムの構築) (大分県杵築市)

移動手段を車に依存する地方都市において、エコドライブの普及などによりCO2削減を推進するとともに、削減量のバンドリング(集計)、クレジット(排出権商取引)化を行い、住民や企業へ還元する地方都市における低炭素社会づくりのモデル的システム構築を図る。



平成21年度の主な取組

- ① 携帯電話を活用し、エコドライブによるCO2削減量を自動的に計測システムを開発・実証するとともに、計測されたCO2削減量のクレジット化を図る。
- ② 個人レベルへの取組拡大に向けた啓蒙活動としてホームページの開設や環境シンポジウム等を開催。

平成22年度以降の展開

エコドライブ以外の生活シーンにおけるCO2削減量を計測可能なシステムの開発・実証を行うとともに、近隣自治体や企業への導入拡大を図る。

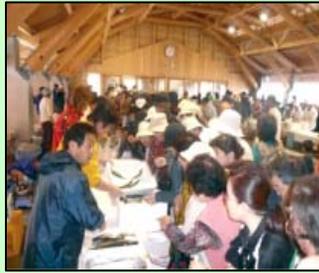
日豊海岸浦(うら)島(しま)連携プロジェクト～産業・観光・人の輪～

さいきし うすきし つくみし のべおかし
(大分県佐伯市・臼杵市・津久見市、宮崎県延岡市)

高齢化や燃料高騰などにより水産業が低迷し、観光資源にも乏しい日豊海岸沿地域が連携し、高速道路のサービスエリアなどでの水産加工品等の移動PR・販売、さらには浦・島を巡る体験型観光ツアーなどの開発により、地域産業の浮揚を図る。



浦・島観光モデルツアー



浦・島各地における市場・食堂の開催



3月旬「まだい」



10月旬「さば」

平成21年度の主な取組

- ① 新たな水産加工品の開発を行うとともに、大型トラックを活用した移動式宣伝・直販車による移動販売を東九州自動車道(H20.6延伸)のサービスエリアを中心として実施。
- ② 遊漁船により日豊海岸の浦・島を巡る体験型観光コースを構築しモデルツアーを実施。あわせて浦・島案内人の育成を図る。
- ③ 波止場や筏、漁師の軒先などあらゆる場所において市場や食堂を試験的に開催。

平成22年度以降の展開

水産一次産品・加工品の通販化、観光ツアーの商品化、さらには活動を継続する組織として、域内外の各種民間事業者と地域住民からなる株式会社を設立。

「気軽に行ける近所の姫島～ちよいとおでかけ」プロジェクト

ひめしまむら
(大分県姫島村)

地方都市近傍の島という地理的特性を活かし、手軽に楽しめるレジャーや地元料理などの提供、さらには、交通手段の整備により、子供からお年寄りまで気軽に何度でも来島する観光スタイルを定着させ、観光業を中心に島全体の活性化を図る。



周防灘を背景に紺碧の海から屹立する黒曜石の断崖



日本書紀登場「比賣古曾社(ひめこそしゃ)」



異型自転車による海岸サイクリング

平成21年度の主な取組

- ① 風光明媚な海岸線を巡る異型自転車によるレンタサイクルの実証やウォーキング大会などを実施。
- ② 郷土料理の改善や新たな名物料理・土産物の開発、宿泊・飲食サービスの向上に取り組むとともに、ポータルサイトの構築やCATVの活用などによる観光PRを実施。
- ③ 乗合タクシー・バス等の導入可能性を検討するとともに、出迎え・案内の観光タクシーモデルコースを作成。

平成22年度以降の展開

乗合タクシー・バスの実証運行などをおし「姫島交通(株)」(仮称)を設立するとともに、レンタサイクルの事業化やウォーキング大会の島民自主運営組織の立ち上げなど自立運営に向けた展開を図る。

『都城にあるもの』探しによる地域価値最大化プロジェクト

(宮崎県都城市)

農畜産物、歴史、自然、人間など、地元にある資源を最大限利用したまちづくりを進めるため、これらを戦略的に組み合わせ、商品開発や高齢者活用によって観光振興を目指す。



産出額日本一の都城栗毛和牛



都城伝統文化“人形浄瑠璃”



高齢者による「都城迎えびと」

平成21年度の主な取組

- ① 薩摩島津の歴史、人形浄瑠璃など文化、霧島連山など観光地をガイドする高齢者による「都城迎えびと」を200人育成。
- ② 来訪者ニーズに即時対応する「都城迎えびと」によるWEBオンデマンド観光メニューの構築・実証。
- ③ 地元畜産物や島津藩密造寒天に由来した産品を活用した料理・菓子などグルメ化を目指した商品開発・実証販売を実施。

平成22年度以降の展開

「都城迎えびと」の継続展開に向けたビジネス化、都城牛めしまつり(仮称)など開発した商品の販促活動の継続実施により、『都城にあるもの』による地域振興を図る。

生涯現役元気村「四季を感じる村づくり」

村の暮らしめぐり博覧会プロジェクト(序章) (宮崎県西米良村)

九州脊梁山地に位置する過疎・高齢化の著しい地域にあって、まつり・神楽など既存の取組に加え、柚など地産品を用いた新たな特産品や観光商品を四季それぞれの情報として内外に発信する活動について、公民館自治活動として取組み、自主・自立・自走による地域の取組として展開を目指す。



「山菜まつり」(5月開催)



「民話語り」(12月開催)

平成21年度の主な取組

- ① 山菜まつり・民話語り・神楽など村内8つの自治公民館等各団体の自主的取組をはじめ村の自然・行事・食事・特産品等を季節単位で取りまとめ情報発信。
- ② 四季折々の魅力を満喫できる観光商品を開発しモニターツアーを実施。あわせて、柚・糸巻き大根・イセイモなど旬毎の特産品・地産料理を開発・販売。

平成22年度以降の展開

リピータの確保に向けた西米良「旅クラブ」の結成や各自治公民館の法人化、村先案内人の育成など継続展開に向けた体制を整備し、自主・自立・自走の取組として定着を図る。

人口370人の村の存続を見据え、これまでの「ジャンベを核とした地域づくり」等をより強力に進めていくことにより、観光関連産業を育成し、地域の優れた資源を生かし、それらを支える人材による自然・歴史・文化の体験ミュージアムの形成を目指す。



ジャンベ：西アフリカの太鼓



岩場に湧き出す温泉

平成21年度の主な取組

- ① ジャンベを体験ツアーとして定着させるため、モニターツアー・合宿の実施とともに、コンサート兼PR活動を九州各地で実施。
- ② 子どもガイドを養成し、島を訪れる観光客に対し子ども目線からの観光ガイドを試行。
- ③ 大学と連携した実習型オープン授業を試行的に開催。

平成22年度以降の展開

体験ツアー、子どもガイド、アイランドキャンパスそれぞれについて本格的な事業展開を目指し、課題の整理・検討、関係機関との調整等を行う。

かんしらぬいかい

環不知火海広域連携集客交流プロジェクト ～教育旅行誘致プロジェクトin出水～

いずみし

(鹿児島県出水市)

万羽ツルの飛来地や武家屋敷等、従来からの市内の観光資源に加えて、新たに熊本県水俣市等の不知火海を囲む周辺地域しらぬいかいと連携した農家民泊での体験学習等を導入し、教育旅行誘致のための体制づくりを進める。



地元農家指導によるコンニャクづくり体験



森林の間伐作業体験

平成21年度の主な取組

- ① 地域内の情報収集、交流プラン作成を担う地域コーディネーターを養成。
- ② 体験学習プログラム、民泊受入研修会の実施により、商品プランを検証。
- ③ 市、市観光協会等関係者との連携により、教育旅行のためのコーディネート機関・受入統一窓口を設置。

平成22年度以降の展開

関西エリア、九州北部エリアの学校、旅行社に対する情報発信とともに、継続的な体験プランを充実させるとともに、広域集客事業を目的とした「環不知火海ツーリズム協議会(仮称)」を設立。

南の島々を輝かせるプロジェクト

(鹿児島県有人離島28(22市町村))

自然に育まれた特産品を活かし、小口需要の広がりというチャンスに対応するため、各離島の魅力を再発見するためのアイランドツアー、アンテナショップ及びインターネット販売を組み合わせたPR強化により、離島の雇用拡大と自立を図る。



鹿児島県内28の有人離島



かごしまアイランドショップの開催

平成21年度の主な取組

- ① アンテナショップを開設し、特産品の選定、集荷・加工・出荷方法、PR方法等を検討する。
- ② アンテナショップによる調査を基に、売れる特産品・加工品を選定し、地域を束ねる一元的なインターネットショップを構築する。
- ③ 地域交流の活性化・観光産業の再生を目指し、各離島の地域資源を組み合わせ、来島ニーズに対応した新たな観光プログラムを開発、販売する。

平成22年度以降の展開

インターネットショップにおける離島特産品出展者の拡大を図るとともに、百貨店等での「かごしまアイランドフェア」を開催、新たな観光プログラムを実施することにより、離島の自立に繋げる。

中学校区を単位とする『コンパクトなまちづくり』の推進および『垂水型定住モデル』の構築 たるみずし (鹿児島県垂水市)

平成21年度末に予定されている市内中学校の統合により生じる中学校跡地を活用し、「仕事(農業)」「保健サービス拠点」「福祉拠点」等の諸機能を整備することにより、中学校区を単位とする「コンパクトなまちづくり」と「垂水型定住モデル」を推進する。



特産のビワ



援農隊によるビワ園の再生



統合予定の中学校と桜島

平成21年度の主な取組

- ① ビワの栽培、水産加工研修等を盛り込んだ定住体験ツアーを実施。
- ② 「地域雇用創造推進事業」で育成した人材や建設業従事者からなる「援農隊」を創設し、荒廃したビワ園を再生する。
- ③ 定住者を受け入れるための空き屋利用促進のため、固定資産税の特例措置等を講じるとともに、データベース化を進める。

平成22年度以降の展開

定住体験ツアー・定住受入、ビワ園再生の各施策を継続して実施するとともに、「中学校跡地活用プラン」に基づき施設整備計画を作成、順次、ハード整備等を進める。

地域密着型駅前商店街のまちづくりビジネスモデルの構築

(鹿児島県鹿児島市)

携帯電話を活用した高齢者等の見守りビジネスや安全安心な食の提供、地産地消の取組み等、安全で暮らしやすいまちづくりを進め、商店街を核に地元住民・大学等が協働で行う地域密着型の「まちづくりビジネスモデル」を構築し、農商連携や広域ネットワークの取組につなげることで、商店街・地域の活性化を目指す。

地域密着型のまちづくり取組例



平成21年度の主な取組

- ① 携帯電話を活用した高齢者の安否確認、子育て世代への情報提供について実証実験を実施。
- ② 修学旅行生を対象にJRや市電を使った商店街エコツアーを実施。また、県内日置市、埼玉県和光市と合同で3地域連携の地産地消事業を実施し、地域再生の展望を開く。

平成22年度以降の展開

まち中(なか)での小規模保育所・宅老所の開設準備と併せ、携帯端末利用による福祉サービスを充実させるとともに、市電等の沿線商店街ネットワーク周遊エコツアー等を実施する。

地域の授産施設人材と低利用土地の観光戦力化事業

うらそえし よみたんそん
(沖縄県浦添市・読谷村)

授産施設利用者に対する観光従業訓練を通じ、地域の低利用土地に低投資・高収益の観光スポットを創出。沖縄の風土観光を象徴するハイビスカスを切り口に障害と低利用土地を複合的に戦力化し収益性を兼ね備えた、地域の観光資源開発、障害者自立支援、雇用機会の創出を図る。



授産施設利用者が栽培した花の苗を福祉まつりで展示即売

低利用土地の活用



地域に自生するハイビスカス

平成21年度の主な取組

- ① 授産施設利用者に対する観光農園での従業を目指した農園管理、花卉栽培、接客訓練を実施。
- ② 低利用土地にパイロットスケールでハイビスカス園を開園し、授産施設利用者が運営する観光農園事業モデルの確立と収益性を検証。

平成22年度以降の展開

ハイビスカス園のフルスケール営業を展開し、薬草やハーブ・農園民宿などハイビスカス以外の新要素を加え、他地区の授産施設との連携によるモデル展開を進め、NPO法人化を目指した体制整備により障害者の地域雇用機会の継続的な創出を図る。

沖縄の海の復活及び地域の産業振興と学術発展を図る 一石三鳥のサンゴ陸上養殖事業

ぎのわんし
(沖縄県宜野湾市)

地域の海洋資源であるサンゴを活用し、陸上養殖技術の調査研究を通じた学術振興、生態系回復による漁獲高向上などの水産振興、観光商品の開発による観光振興を図り、課題である雇用機会の増大等に繋げる一石三鳥の事業構築を目指す。



地域資源のサンゴ礁



サンゴ種苗の植付け体験

平成21年度の主な取組

- ① サンゴ植付けツアーを「自然再生エコツアー」として展示会等で販路を拡大。
- ② 大学と連携し、サンゴの陸上養殖技術確立のための調査研究を実施。
- ③ サンゴの海への植付けを担うダイバー等の人材確保のため、マニュアルや講習会の開催で指導者を育成。

平成22年度以降の展開

事業拡大へ向けてのリーダーの育成とともに、全国の水族館との連携によるサンゴ養殖のビジネスモデル構築や観光商品の販売による持続的な展開を図る。

くろしま 黒島の地域資源を活かした滞在型観光事業の構築

たけとみちょう
(沖縄県竹富町)

ウミガメ等の海洋資源をはじめ、島の暮らしや文化資源と触れ合う体験を通じて、健康増進をテーマとした着地型観光を展開する一方で、来島者の増加による自然への負荷の緩和や地元住民との調和を図り、持続可能な滞在型観光の創出を目指す。



ウミガメの観察



黒島固有の民族芸能

平成21年度の主な取組

- ① ウミガメ等の海洋資源や島の暮らし等の文化資源を素材とした体験プログラムの開発とモニターツアーの実施。
- ② 島の民俗芸能や生活習俗を伝える橋渡し役となる案内人の育成。
- ③ 島学校事業としての滞在型観光の本格展開に向けた検討の実施。

平成22年度以降の展開

体験型プログラムの充実や滞在型観光事業としての本格展開を実施するとともに、離島のモデルとして竹富町の他の離島へ普及させることで、地域全体の活性化を図る。

海路交流の拠点として発展してきた那覇市において、多様な団体の連携のもと海外交流や海洋学習など若年層を中心とした人材育成や海辺の観光資源の発掘・情報発信等を行い、古の“大陸と日本の架け橋(万国津梁)”としての機能回復を図る。



子供エイサーによる旅客船歓迎セレモニー



海洋学習(珊瑚観察シュノーケリング)

平成21年度の主な取組

- ① 那覇港寄港旅客船を活用し小中学生の体験クルーズや大陸文化との交流活動、珊瑚や海洋生物の観察など海洋学習を実施。
(例: 那覇→基隆^{きーるん}(台湾)→石垣→那覇)
- ② 古の海外交流史跡等地域資源の調査や学習会の開催、さらには新たな海辺観光マップの作成等を実施。
- ③ みなとまちづくり応援団を設立するとともに、協議会の法人化検討など継続的体制を構築・検討

平成22年度以降の展開

新たな旅行商品や土産物の開発・販売、観光マップの販売など活動収益を検討のうえ、ナハシーパラダス協議会を法人化し、万国津梁の心を継承する活動の継続展開を目指す。

沖縄最東端・絶海の孤島で元気再生

「北大東島フロンティアツーリズム」推進プロジェクト (沖縄県北大東村)

農商工連携を通して第1次、第2次、第3次産業を掛け合わせ、絶海の孤島ならではの体験プログラムを組み込んだ「フロンティアツーリズム」を推進し、雇用の創出を図り、人材を確保・育成して人口増を図ることにより、地域の活性化を目指す。



北大東島全景



郷土料理新メニューの開発



太平洋のど真ん中の釣り体験

平成21年度の主な取組

- ① 島人の元気の元となった「生活習慣」や「食」を掘り起こし、郷土料理新メニュー、島生活体験プログラムを作成する。
- ② 携帯CRMシステム「タッチャン」を応用し、特産品のPRができる「北大東タッチャン」を開発する。
- ③ 捨てられている濃縮海水を活用して、天然塩、高ミネラル水を製造し、事業化するための可能性調査と事業計画の策定を行う。

平成22年度以降の展開

「北大東タッチャン」システムを他の離島にも展開し、広域ネットワークを構築するとともに、「フロンティアツーリズム」ブランドによる元気再生商品(体験プログラム、特産品等)の更なる開発と展開によって経済活性化を図り、「子どもたちが帰ってくる島」としての自立を実現する。

美ら島の農商工連携で、サンゴ礁を守り、持続可能な島農業を再生するプロジェクトいしがきし
(沖縄県石垣市)

石垣島のサンゴ礁の危機を救うため、農地からの赤土や栄養塩の流出を防止する環境保全・循環型農業を普及させるとともに、ここで収穫された農産物を「空の駅」で販売し、その収益の一部をサンゴ礁基金として還元させる島の農商工連携を実施する。



島内の牛ふん原料の完熟堆肥



環境認証農産物の生産



「空の駅」での販売実験

平成21年度の主な取組

- ① 赤土流出防止対策、減農薬・化学肥料、堆肥使用など環境保全・資源循環型農畜産物生産に取り組む農家を増やし、ネットワーク化する。
- ② 空港内での「空の駅」売店の模擬開設により、地域住民や観光客をターゲットとした環境保全・資源循環型農畜産物のマーケット開拓。
- ③ 「空の駅」の開設に向けた関係者間の調整。

平成22年度以降の展開

環境保全・資源循環型農業をネットワークを拡大するとともに、環境認証農畜産物流通システムを充実させ、この収益に対し、環境保全対策への有効な還元方法を確立する。